

Q

環境ボランティアリーダー養成プログラムとは？

A

自ら環境保全の「環」を広げられる人を養成しています。

環境保全を効果的に進めていくには、企業がボランティア活動を企画して社員の参加を促すよりも、自ら環境ボランティア活動を企画・運営し、環境保全の「環」を広げられる人材を養成することが重要であると考えました。そこで、1999年6月、環境ボランティアリーダー養成プログラムを立ち上げ、2001年度には、リコーグループ社員および退職者を対象としたプログラムへと拡大しました。2004年度末現在277名がこのプログラムを受講しており、今年度は、リーダーが自ら企画・運営して69回の環境ボランティア活動を行いました。リーダーは、地域社会で社員や家族、友人たちと一緒に環境ボランティア活動を実施し、環境意識啓発を図っています。また、プログラム修了後、何度かボランティア活動を体験してから、自ら活動を企画する受講者も多いため、各地のボランティア活動情報を紹介し、実際に参加できる機会を提供しています。

Q

どのような仕組みのプログラムですか？

A

意識や知識を高め、活動のノウハウを得られる仕組みです。

プログラムは、「リコー自然教室・初級編」と、そのフォロー研修である「全社会議」「リコー自然教室・中級編」「リコー森の教室」で構成されています。「自然教室・初級編」では、NPOや専門家の協力を得て、生態系保全の重要性について学び、ボランティア活動を企画・運営するための基礎を身に付けます。「全社会議」は、リーダーの新しい知識習得、活動報告、リーダー同士の交流を行っています。さらに「自然教室・中級編」では、活動を企画するだけでなく、その意義や楽しみ方を伝えることができる人材の育成を、「森の教室」では、森林保全に関する専門知識や技術を持った人材の育成を狙っています。



自然教室・初級編の様子

Q

今後は、どのように活動を発展させていく予定ですか？

A

地域別に自然教室を開催し、リーダーを増やしていきます。

当初は、東京地区で自然教室を開催していました。そのため、東京地区以外の社員は参加するのが困難でした。そこで、2002年度に、関西地区のグループ社員を対象に、大阪の池田事業所で自然教室を開催したところ、これまで興味があっても参加できなかった社員が集まりました。さらに、研修後スムーズに、環境ボランティア活動が行えるよう近隣の雑木林を市役所に紹介していただくとともに、その雑木林で活動しているNPOの方を講師として招きました。参加者は研修後、「グリーンコンタクター」というグループをつくり、活動を継続しています。地域ごとの自然教室は今後も続けていく予定で、2005年度は四国、関東、関西で開催します。リーダーを中心として各地域で行政やNPOとのネットワークを拡大し、環境ボランティア活動の「環」を広げていきます。

社員に聞く

INTERVIEW

環境ボランティアリーダーの声



自然教室で仲間と出会い、主体的に活動を始めました。

リコー池田事業所
電子デバイスカンパニー
事業企画室
人事・総務課
岩本清子

自ら活動するきっかけとなった自然教室

もともと、私はハイキングや山登りが好きで、そこで出会った植物をスケッチしたり、名前を覚えたりするのが好きでした。自分の中で、自然や命について考えるようになった時期に、私の所属する池田事業所でリコー自然教室

が開催されることを知りました。以前から、ボランティア活動を主体的に行ってみたい気持ちがあったので、自然教室に参加しました。自然が好きな仲間が身近にいたことが嬉しく、その仲間が大勢いたことに驚きました。自然教室での懇親会で意気投合し、「何か活動を始めようよ」と、その場でメンバーを集い、仲間とグループを立ち上げました。

活動参加を社員にも呼びかけ

五月山での活動を始めて2年になります。竹林の整備やハイキング道路の整備のほか、「ツ



ルカゴ編み体験」なども行っています。社内に活動当日の写真と活動参加の呼びかけを掲示することで、活動に参加したいという社員も増えました。市民の方の参加もあります。これからも、誰もが自然に接することができる機会を、私たちの手でつくっていききたいと思っています。